

地域包括ケアネットワーク No.48

美作市における医療介護連携の現状と課題

美作市医師会 副会長 福井 祥二

美作市の人口は平成28年で28,816人、その内65歳以上の高齢者が11,137人で38.6%を占め、独居老人も2,902人と年々増加しています。介護保険の認定率が23.5%、予備軍が約20%で40%以上の人が何らかの支援や介護が必要とされる地域です。美作市・西栗倉村では、医師会が中心となり、平成25年から始まった地域在宅医療連携拠点事業を契機に、地域包括ケアシステムの構築に向け活動を開始しました。まず、「地域住民が住みなれた町で安心して自宅で生活できる」ように、そこに係る多職種の連携を緊密にするため、顔の見える関係作りに力を注ぎました。医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、ケアマネジャー、ヘルパー、栄養士、介護施設スタッフ、訪問看護・介護スタッフ、保健師、保健所、行政担当者により多職種協働研修会を年2回ずつ開催しました。毎回100名を超える参加者があり、グループワークでは活発な討論がされ、短期間のうちに顔の見える関係と仲間意識が芽生え有意義な会となりました。また、実際に在宅医療を行う上で必要な情報を共有する情報共有ツール（紙ベース）の作成や、入院が必要となった場合にも在宅から入院・退院という流れの中でシームレスな対応ができる体制作りのために、入退院ルールを作り多職種間の意思の疎通を図ってきました。医療・介護資源マップを平成28年に作成し、各家庭に配布しました。今後も内容を更に充実させ、定期的に改定していくとともに、住民にこの冊子の存在や利用法を広めていく必要があると思われま

す。認知症対策は現在、美作市ではサポート医が1名（今後増やしていく予定）、認知症初期支援チームは平成30年に立ち上げる予定で組織的な対応はこれからという段階です。一方、積善病院内にある「みまさか認知症疾患医療センター」の近藤先生を中心に活動している「みまさか認知症医療推進会議」に参加し、美作・真庭地域の各医師会、保健所と連携し意見交換を行っています。いずれにせよ残念ながら少し立ち遅れているという印象は拭えません。

最後に、最も大切な地域住民に対する啓発活動は、シンポジウム・市民フォーラム等を開催し美作市在宅医療・介護連携が進んできていること、夜間・休日等に入院が必要になった場合は美作市立大原病院・田尻病院が全面的に協力するという態勢が整っていることなどを説明してきました。また「エンディングノート」の映画を上映し、リビングウィルやエンディングノートの作成についても話題を提供し考えて頂きました。しかし参加者はまだまだ少なく、今後更に回数を重ね、工夫を凝らして、地域包括ケアシステムを理解して頂けるよう努力していく必要性を痛感しているところであります。